



ままほいくえん

moment mémorable

モンテッソーリ教育



議題

1

モンテッソーリとは

2

大人の役割

3

保育のポイント

4

3園共通認識

モンテッソーリとは

子どもを観察することによって見出された事実に基づく教育法。

その基本的な考え方は「子どもには生来、自立・発達していこうとする力（自己教育力）があり、その力が発揮されるためには発達に見合った環境（物的環境・人的環境）」が必要である というもの。



大人の役割



ゆとりのある設定

日々の生活の中でせわしい設定の組み方はしない。子どもも、おとなもせっかちになってしまう。焦らないでゆとりのある設定を組みましょう。



否定じゃなく気づかせよう

ダメよ！～しなさいではなく、何故ダメなのか、いけないのか明確にして伝えましょう。



何度も繰り返す

子どもを信じ、できるようになるまで何度も繰り返し忍耐強く見せるよう心がけましょう。

0歳児のポイント

何よりも落ち着いて安心して過ごせる環境が大切。
この時期は様々な発達を遂げていくとき、私たちはその発達を見逃さず、時期に応じた環境構成をしていかなければならない。

例えば、仰向けになって手を動かしていたら、手の届きそうな位置におもちゃを用意してあげる。

ずりバイ・ハイハイし始めたときは、上り下りができる環境を作る。
つかまり立ちの時はつかまって移動できるように安定感のあるものを置いてあげる。

今、どういう発達を遂げようとしているのか、大人は一步先をよみとっていく。



1歳児のポイント

一歳児は言葉の獲得はめまぐるしい。私たち大人は実際の言葉を使用するようにしましょう。

例えば、犬は犬と言いましょ。ワンワンではなく現実の世界で使われている言葉を教えましょ。犬ときちんと言えるようになったら次の段階として犬種を言うようにしましょ。（電車・花など）



2歳児のポイント

二歳児はお母さんや先生の真似っこ・お手伝いが大好きなとき。感覚的にも大きい・小さい・高い・低いなどが分かってきます。環境設定としては、いつでもごっこあそびができるように用意してあげるといいでしょう。（お人形お着替え・お医者さん・メイクセット）



乳児との会話 7つの法則



- ①命令や欲求よりも気付かせましょう、思い起こさせましょう。
- ②子どもが頑張った行動を認め、具体的にその努力を認めましょう。
- ③子どもに何ができるのかを伝えましょう。
- ④「はい」または「いいえ」で答えてしまう質問を選択肢がある言い方に置き換えましょう。
- ⑤肯定的なしつけを心がけましょう。
- ⑥実際の言葉を使用するようにしましょう。
- ⑦具体的で特定の言葉を使いましょう。

3園共通認識

0～3歳は物的・人的環境がとても大切な時期です。私たちは子どもの自主活動をやさしさと思って奪ってしまっているときがある。それはやさしさではなく、子どもの自主的な活動を奪ってしまっている。

子どもを信じること・待つこと・見守ることが大事です。そして、愛溢れる保育。子どものしていることを認め、励まし、共感していくことで、自らしようとする、したい、もっとしたいという気持ちが育ってくるのです。そんな力をまま保育園の愛情あふれる保育の中で、子どもたちと共に育てていくことを共通認識としていしましょう。

